

1 調査結果の分析

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」

<話すこと・聞くこと>

概ねできているが、聞き取るべき中心の事柄を聞き取ったり、聞き取った情報を基に、条件に合う資料を選んだりする問題で、3割程度の誤答が見られた。細かい部分まで、正確に聞き取れていないためである。

<書くこと>

物語の組み立てシートに適切な文を入れ込む問題で、3割程度の誤答が見られた。物語の構成や展開についての理解が不十分であったとみられる。

<読むこと>

叙述に即して、中心人物の気持ちを読み取る問題で、書かれている順序や一文の表現のみに着目してしまったために5割の児童が読み取れていなかった。

<言語についての知識・理解>

漢字の書き取りでは「定める」の正答率が4割強であった。これは、日常会話にあまり使う場面がないことによるものと考えられる。指示語や接続語に関しては、概ねできていた。

<取り出す力、読み取る力、解決する力>

筆者の投げかけた問いを取り出すことはできるが、二つの資料の内容を比較・関連付けて読み取ることや筆者の意図を理解、解釈する力が不十分である。

「全国学力・学習状況調査」

国語Aに於いては、故事成語の意味と使い方の理解や、話し合いの観点に基づいて情報を関係付ける力がやや不十分であった。また、国語Bに於いては、課題を解決するために、目次や索引を活用して本を効果的に読んだり、二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えたりする力が不十分であった。質問の意図を捉える力も東京都の正答率より若干低い結果となった。

2 授業改善の方策

＜話す・聞く＞話の中心だけでなく、細部まで正確に聞く注意力を養う。そのために、注意深く聞く練習やゲーム的な要素を取り入れたスキル学習を適宜行う。

＜書くこと＞物語の構成や効果的な表現を考える学習を行う。そのために、短い文章を組み立て、効果的な表現を考えたり、文章を書いたりする機会を設ける。

＜読むこと＞文学的な文章を読むときは叙述から場面の様子をイメージすることを大事に指導すると同時に心情を表す表現の工夫を理解できるように丁寧に指導する。そのために、短い文章からイメージさせたり、優れた表現を紹介したりする機会を増やす。説明的な文章では、要点、文章構成、要旨を捉える学習から文章全体を再構築する力を養う。そのために、「読み取りのコツ」を指導し、中学年からは、文章の再構築を意識したまとめの仕方を学習に位置付ける。

＜言語の知識・理解＞普段から辞書を活用する機会を多く設ける。語彙量を増やす言葉の学習を意識的に行う。そのために、取り立てて言葉の学習の時間を設ける。主語と述語の対応、修飾語と被修飾語の関係、指示語に指示内容を入れる等の学習。言葉遊びなどで、語彙を増やす機会を設ける。

＜取り出す力、読み取る力、解決する力＞二つの資料の内容を比較・関連付けて読みとることや筆者の意図を理解・解釈する力を付ける。そのために、教科書の文章だけでなく、比較する文章をもってきて、似ている所を挙げさせたり、関連付けて考察させたりするなどの手立てを行う。

3 活用につながる指導

- ・文学的な文章の読みの学習においては、ブックトークや平行読書を行い、文章を比較して、似たところを探したり、同じテーマの本を読んだりする。
- ・説明的な文章の読みの学習においては、筆者の主張を短い文でまとめたり、文章構成の仕方を学んで説明文を書いたりする。